

平成 19 年 3 月 12 日

「1847 善光寺地震」報告書案について

分科会主査 北原 糸子

当分科会が取りまとめた別添報告書案について、本専門調査会においてよろしくご審議頂きますようお願い致します。以下概要についても、中央防災会議報告時の説明資料としても利用致しますので、合せてご審議頂きますようお願い致します。

はじめに

弘化 4 (1847) 年の善光寺地震は、マグニチュード 7.4 の典型的な内陸直下型地震であり、善光寺如来の居開帳のため観光客で賑わう善光寺領とその周辺は大きな被害を受けた。また、広範囲にわたり地すべりや山地崩壊が発生し、大量の崩壊土砂による川の堰き止め、決壊、洪水の発生という二次災害による被害も大きかった。

第 1 章 災害の概要

善光寺地震は、長野盆地の西縁を形成してきた断層が動き発生した。善光寺平は、中越地震や濃尾地震なども発生した日本列島中央部に存在する歪集中帯内に位置している。さらに、震源断層と考えられている長野盆地西縁系断層は、全国的に見ても活動的といえる。建物の倒壊、火災、土砂災害、崩壊土砂による天然ダムの形成と決壊による水害など各種災害が複合的に発生し、1 万人前後の人々が死亡したと推定される。古文書や絵図による記録が数多く残されており、天然ダムの湛水範囲と決壊後の洪水範囲など被害状況を知ることができた。

第 2 章 被害と救済、そして復興へ

善光寺と周辺の宿場などには市街地が発達していたため、家屋倒壊が多数発生した。また、二次災害である火災によっても大きな被害が発生した。さらに、居開帳の期間中であったため参詣者等が存在したことや、地震が夜間に発生したことも被害を拡大する要因となった。被災者は都市化が進む前の社会であったため、親類縁者を頼り、在所に避難した。住民相互の支援も、近隣諸郷の間で、食料品などを中心として早い段階から行われた。

災害への対応としては、地震直後の祈祷・施餓鬼供養などに始まり、お触れ・高札、情報の収集・被害の把握、夫食・物資・銭金の融通・救恤、藩主や藩役人による被災地の検分、顕彰、旅人への施し、普請、各藩との協力など一連の施策が実施されたが、代官所や藩によって実施項目・内容は異なるものとなった。

第 3 章 災害情報

文字による災害情報や人を介し流通した情報、読売・災害絵図・地震口説きなどの摺物、現地に残る絵馬や供養塔など、現在に残る災害情報の面から、善光寺地震の特徴を考えた。

長期にわたってニュース性を保ち、様々な形（情報）で広まり、消費された点に善光寺地震に係る災害情報の特徴がある。

本震の大きさに加え、余震が長く続き、人々の不安を助長させたこと、各種の災害が複合的に発生し長期化したこと、善光寺への参詣者・行方不明者を訪ねる縁者が存在したことなどがその理由と考えられている。

第 4 章 まとめ

- ・今回、多くの災害教訓を引き出すことに成功したのは、藩主自ら現地調査に赴くなど、当時においては特異ともいえる松代藩の優れた災害対応の結果に負うところが大きい。
- ・地震による崖崩れや土石流、天然ダムや孤立地区の発生は新潟県中越地震でも起こっており、将来の災害に備えるため、過去に発生した地震により土砂災害が発生した箇所を精査し、ハザードマップの作成、二次災害を含めた危険箇所の周知などを計画的に進める必要がある。
- ・倒壊家屋から脱出できず、多数が焼死したことを踏まえ、建築物の耐震化や不燃・難燃化に取り組むことが重要である。

1 分科会の開催状況及び今後の予定

H18. 2.21	第1回開催（内閣府）	構成案検討
H18. 4. 7～ 8	第2回開催（長野等）	現地調査及び目次・執筆分担の検討
H18. 4～ 8	原稿執筆期間	
H18. 9. 8	第3回開催（長野）	担当原稿の検討
H18.12. 1	第4回開催（長野）	報告書案の検討
H19. 2. 2	第5回開催（長野）	報告書案の検討＜最終回＞
H19. 3. 2	報告書案完成、小委員会で審査	
H19. 3.12	専門調査会で報告案の審査	
	専門調査会審議結果を反映の上、校正開始予定	
H19. 3＜予定＞	報告書（200部）完成を予定	

2 分科会委員

* 北原 糸子	神奈川大学非常勤講師
赤羽 貞幸	信州大学教育学部長
伊藤 和明	防災情報機構特定非営利活動法人会長
鬼頭 康之	長野市総務部庶務課公文書館準備担当
原田 和彦	長野市総務部松代支所松代文化施設等管理事務所係長
降幡 浩樹	長野市立博物館学芸員
井上 公夫	財団法人砂防フロンティア整備推進機構参与・技師長
松浦 律子	財団法人 地震調査研究センター主任研究員

（ :分科会主査、 :専門委員会座長、 * :専門調査会小委員会座長）

事務局

<内閣府>

荒木潤一郎	政策統括官(防災担当)付災害予防担当企画官
藤田 亮	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付
三上晴由貴	政策統括官(防災担当)付災害応急対策担当参事官付
山腰 裕一	政策統括官(防災担当)付災害予防担当参事官付（H18.3まで）
松田 淳吾	政策統括官(防災担当)付地震・火山対策担当参事官付（H18.3まで）

<(財)日本システム開発研究所>

上田 和孝	研究部第二研究ユニット
山田美由紀	研究部第二研究ユニット

3 その他報告事項

- ・以下の絵図については、災害の全体像を把握するために地名等が判別可能な解像度の高いものが必要なため、報告書にて印刷するほか電子ファイルをCD-ROMに添付して付録とすることを検討する。

『信州地震大絵図』（真田宝物館所蔵）

『善光寺地震池田組大絵図』（池田町原田恵美子氏所蔵）

1847 善光寺地震 報告書

< 案 >

平成十九年三月

中央防災会議
災害教訓の継承に関する専門調査会